

# 感染症

## 相双地域感染症発生動向調査週報(2026年第22週)

(令和8年5月25日～令和8年5月31日)

令和8年6月4日

定点報告(上段: 定点当たり/下段: 報告数)、全数報告(報告数)

区分	疾病名	2026年					2025年 合計	2024年 合計
		19週	20週	21週	22週	合計		
定点報告	インフルエンザ	0.33 1	- 0	- 0	- 0	- 582	- 2,558	- 1,616
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	1.33 4	- 0	0.33 1	1.00 3	- 132	- 1,139	- 3,622
	RSウイルス感染症	0.50 1	0.50 1	0.50 1	0.50 1	- 29	- 156	- 309
	咽頭結膜熱	- 0	- 0	- 0	1.00 2	- 6	- 78	- 337
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.00 2	3.00 6	1.00 2	1.50 3	- 82	- 243	- 657
	感染性胃腸炎	1.50 3	1.00 2	1.00 2	1.50 3	- 116	- 430	- 610
	水痘	- 0	- 0	- 0	- 0	- 4	- 10	- 6
	手足口病	- 0	- 0	- 0	0.50 1	- 1	- 15	- 952
	伝染性紅斑	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 141	- 0
	突発性発しん	- 0	- 0	0.50 1	- 0	- 13	- 59	- 182
	ヘルパンギーナ	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 4	- 19
	流行性耳下腺炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 1	- 10	- 13
	急性出血性結膜炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0
	流行性角結膜炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 2	- 9
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	- 0	- 0	1.00 1	- 0	- 3	- 16	- 1
	クラミジア肺炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0
	細菌性髄膜炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0
	マイコプラズマ肺炎	- 0	1.00 1	- 0	1.00 1	- 12	- 42	- 16
	無菌性髄膜炎	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0	- 0
	インフルエンザ入院	- 0	- 0	- 0	- 0	- 7	- 39	- 19
	新型コロナウイルス感染症(入院)	- 0	- 0	- 0	- 0	- 21	- 56	- 120
	急性呼吸器感染症(ARI)	46.67 140	47.33 142	55.00 165	64.33 193	- 4,080	- 8849	- -
全数報告	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	1	0	1	0	1
	百日咳	0	0	1	0	8	141	0

カラー流行表示は、福島県感染症発生動向調査週報(IDWR)の表示をそのまま表示しています。

定点把握疾患	咽頭結膜熱 が増加しています。
新型コロナウイルス感染症	相双地域は前週と比較して増加しましたが、県(県内総数)は前週と比較して減少しました。他疾患と同様、基本的な感染対策が重要です。
マイコプラズマ肺炎	本県で2例報告がありました。 マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマと呼ばれる細菌に感染することで発症する呼吸器感染症で、小児や若年層を中心に流行します。感染経路は飛沫感染や接触感染で、感染してから2～3週間で発熱や全身の倦怠感、頭痛、痰を伴わない咳などの症状が見られます。また、近年国内で、治療薬のマクロライド系抗菌薬に耐性を持つ、マクロライド耐性株の報告が増加しています。長引く咳などの症状がある場合は医療機関を受診しましょう。
結核	本県で3例報告がありました。 昨年と同様、高齢者や外国出生者が多くを占めている状況です。外国人労働者を多く雇用する事業所や高齢者施設は、既存の感染対策に加え、結核対策としての定期健康診断を実施し、早期発見に努めましょう。
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	本県で1例報告がありました。 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症は、メロペネム等のカルバペネム系や広域β-ラクタム系の抗菌剤に対し耐性を示す腸内細菌による感染症です。健康な人への感染はほとんどなく、主に院内で感染で確認されるものであり、肺炎や尿路感染症、敗血症等、重篤な症状を起こします。また、使用できる抗菌剤が制限されてしまうため、適正な抗菌剤の使用を心がけるなど耐性菌を増やさない取り組みが重要です。院内感染が発生した場合には感染拡大防止策の徹底をお願いします。
麻疹	県内での発生は確認されていませんが、国内の感染者数が増加しています。 麻疹(はしか)は麻疹ウイルスによる感染症で、感染すると咳、鼻水、高熱、発しんが生じます。空気感染が主な感染経路であり、極めて感染力が強く、免疫を持たない人が感染者に接するとほぼ全員が感染します。手指消毒やマスクのみでは予防することができません。最も有効な予防法は、ワクチンの接種です。海外からの輸入事例がほとんどであることから、特に海外へ出張・旅行に行く方は、ワクチン接種(2回)の有無を確認し、感染に十分注意しましょう。

(参考・引用)福島県感染症発生動向調査、感染症週報、2026年第22号